

## 久米島から採集された興味あるコメツキムシ5種

鈴木 互

〒 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校 生物科 (elater2003elater@yahoo.co.jp)

## Notes on Five Elaterid Beetles from Kume-jima Island, Ryukyu Islands, Japan

Wataru SUZUKI

久米島は、沖縄島から西に約 100 km 離れた場所に位置する属島で、県内では 5 番目に大きな島である。この島に生息するコメツキムシは、種名未確定の 1 種を含む 29 種が記録されており (鈴木・乙部, 2013; 鈴木, 2014; 水野・岸井, 2014), このうち 4 種が久米島特産とされている。筆者は、久米島からは採集例の少ないコメツキムシ 1 種に加え、これまで記録のなかった 4 種のコメツキムシを新たに発見することができたので、ここに報告しておきたい。

報告をするに当たり、久米島産の興味深い標本をご恵与くださった中村涼氏、奄美大島産の比較標本をご提供いただいた有本久之氏、文献入手でお世話になった今坂正一氏に厚くお礼申し上げる。

1. シロモンサビキコリ *Agrypnus (Agrypnus) scutellaris* (Candèze, 1857) (Fig. 1)

1 ♀, 沖縄県島尻郡久米島町シンリ浜 (10 m), 24. VIII. 2018, 中村涼採集。

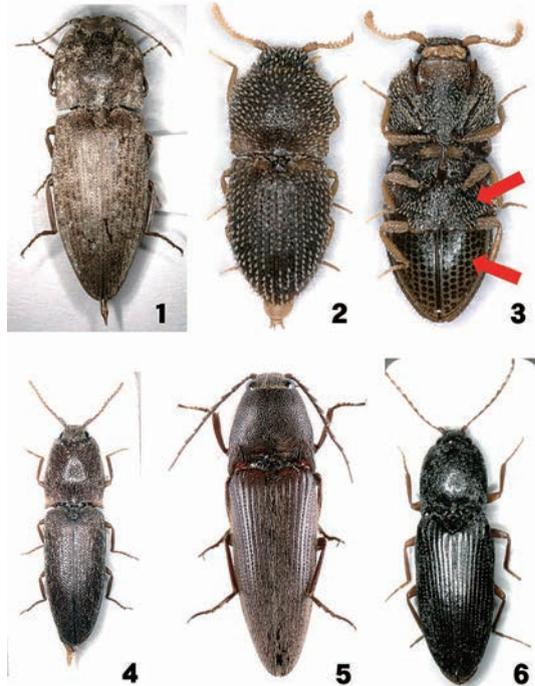
本種には、口之島から沖縄島に生息する基亜種と八重山諸島に生息する亜種 *A. s. hamai* Ôhira, 1967 の 2 亜種が知られている (大平・鈴木, 1985)。今回検することができた久米島産の個体は、体長が 15 mm とやや小型で、前胸背板には 1 対の瘤状隆起が存在するものの、平滑部は認められないなどの特徴が認められた。体が小型である点では、基亜種に似るが、前胸背板の瘤状隆起の形質が不明瞭となる点では八重山亜種に似るものであった。ここでは、久米島にこのような特徴をもつものが生息することを明らかにすることにとどめておきたい。久米島からは、シロモンサビキコリの亜種 *A. (A.) scutellaris hamai* の学名で記録がある (岸井・水野, 2014)。

2. ケシツブスナサビキコリ *Rismethes ryukyuensis* Ôhira, 1999 (Figs. 2-3)

139 exs., 沖縄県島尻郡久米島町シンリ浜 (1 m), 21. V. 2018, 鈴木互観察・採集; 4 exs., 22. V. 2018, 同地, 鈴木互採集・観察。

本種は、九州 (長崎, 熊本) から台湾の緑島に連なる島々に広く分布することが知られている体長 2 mm 程のコメツキムシである (Lewis, 1894; 平松, 1975; 大平, 1995; Suzuki, 2001)。

本種は、以前は中国を基産地とする *R. scobinula* (Candèze, 1857) と同種と考えられていたものである (Lewis, 1894; 大平・鈴木, 1985, ほか略)。Hayek (1973) は *R. scobinula* のレクトタイプ標本と Lewis が日本から記録した標本を比較し、日本産は後翅が消失し、後胸腹板が縮小することから、*R.*



Figs. 1-6. Five elaterid beetles collected from Kume-jima Island, Ryukyu Isls., Japan.

1, *Agrypnus (Agrypnus) scutellaris* (Candèze, 1857), ♀; 2, *Rismethes ryukyuensis* Ôhira, 1999, ♂, dorsal view; 3, ditto, ventral view: arrows showing the reduced metathrax and the absence of hind wings; 4, *Lacon (Lacon) parallelus amamiensis* Ôhira, 1967, ♀; 5, *Melanotus nodai* Arimoto, 2011; 6, *Platynychus lochooensis* (Kishii, 1979).

*scobinula* ではないことを明らかにしたが、分類学的な処理はなされなかった。その後出版された保育社の図鑑では、Hayek (1973) により指摘された形質が見過ごされ、Lewis (1894) の扱いがそのまま踏襲された (大平・鈴木, 1985)。近年になって、大平 (1995) は、日本の石垣島の個体と、中国、香港、テキサスの個体をあためて比較した結果、日本産のものは他の地域に比べより小型で卵形状であること、背面は強く膨隆するなどの違いがあることを発見し、*R. scobinula* とは別種であることを明らかにした。しかし、その場では分類学的な処理はせず、4年後に石垣島の個体を基に新種として記載した (Ôhira, 1999)。

本種の採集状況が明記された報告は、糖蜜トラップで採集された例 (平松, 1975)、サナギ粉のトラップにより採集された例 (大平, 2000)、石起こしで採集された例 (大平, 1975; 2001)、海岸林の落葉層から得られた例 (鈴木, 2003) などがこれまでに知られている。筆者は、アダン *Pandanus odoratissimus* の枯木 (Figs. 7-8) から本種を多数見いだすことができたので、その観察事例を書き留めておきたい。

枯木は、浜に自生したアダンの林縁に落ちていたもので、大半は地面の上に置かれている感じであったが、下面の一部が浜に埋もれた状況になっているものもあった (Fig. 7)。枯木の太さは直径 10-15 cm ほど、長さは 30-50 cm で、樹皮は残っているものの材部は完全に朽ち果て消失し、材は筒状になっていた (Figs. 7-8)。これらの材を垂直にして叩いたところ、細かい繊維片と共に 135 頭のケシツブスナサビキコリが落ちてきた。はがれかけた樹皮の下に隠れていた可能性もあるが、枯木内部の細かい繊維片に混じって落ちてきたことから、大半の個体は筒状になったこの枯れ木の中にいたものと思われた。この枯木から落ちた個体はすべて成虫で、残念ながら本種の幼虫は見いだすことはできなかった。

当日は、朝に雨が降り、浜は湿った状態にあったため本種を探し出すことは難しく、石の下でじっとしている個体をわずかに 4 頭しか見いだすことができなかった。しかし、筒状に空洞になった枯木は雨が降っても内部が乾燥した状態がある程度保たれており、雨から隠れるのにも、本種が活動するにも好条件となっていたようである。そのため、この枯木を叩いて落とされた個体は、雨天時に石下に隠れていた個体と違って、活発に歩きまわる様子が観察できた。



Figs. 7-8. Fallen and decayed trees of *Pandanus odoratissimus* which many adult beetles of *Rismethes ryukyensis* were found.

本種の形態については、Lewis (1984) 以外に、Hayek (1977) や大平 (1995) にも詳しく記載されている。しかし、上翅、後胸腹板、後翅の特徴についてはこれまであまり触れられていない。今回の調査で、上翅は半球状に盛り上がり、左右の翅は会合部で癒合し、開くことはできないことが明らかになった。また、後胸腹板は著しく短く、幅の 0.45 倍、後翅は全く消失し、確認できない (Fig. 3)。このような特徴がこの属に共通してみられるのかは、資料が少なく確認できなかったが、どの種も体形が酷似していることから、その可能性は高いかもしれない。本種は飛翔が不可能なため、移動はもっぱら歩行によるものと考えられるが、近くで見ていると高く飛び跳ねる個体がよく観察されることから、跳ねるという行動も移動方法のひとつとなっていると考えられる。

本種が生息している場所をプロットしてみると、黒潮や対馬海流の流れに沿っているように見える。現時点では日本海側の対馬や佐渡、太平洋側では四国、近畿の沿岸や伊豆諸島からの記録はないが、興味がそそられる。後翅のないこのコメツキムシが、どのように分布を伸ばしていったのか、それを明らかにするには、現時点では不明な幼生期の生活環境を明らかにすることが鍵となるだろう。

分布：九州 (長崎・島原・天草)、屋久島、口永良部島、トカラ (中之島・宝島)、奄美大島、喜界島、徳之島、伊是名島、多良間島、久米島、石垣島、西表島、与那国島、波照間島；台湾 (緑島)。

### 3. アマミコガタノサビコメツキ *Lacon* (*Lacon*) *parallellus amamiensis* Ôhira, 1967 (Fig. 4)

2 ♀♀, アーラ岳山麓, 22. V. 2018, 鈴木互採集。

このアマミコガタノサビコメツキは、北海道から屋久島にかけて広く分布するコガタノサビコメツキの奄美大島亜種として Ôhira (1967) により命名記載されたものである。本亜種は、原記載以降 30 年以上まったく追加記録がなかったが、吉田・黒田 (2001) により沖縄島から発見され、続いて大平 (2009) により徳之島産の個体も記録されている。

本亜種の形態については、大平・黒田 (2002)、大平 (2004) により沖縄島産の標本に基づいて詳しくその特徴が記載されており、体長が 8.5–10 mm と小型であること (基亜種は 12–13 mm)、両側は雄個体では後方により顕著に細まるなどの違いが確認されている。今回、久米島から得られた雌個体は、体長が 9.3 mm とやはり小型で、複眼は中型 (本州産はより大型)。前胸背板は、横から見ると丸く、強く隆起し、背面には中央縦溝が存在しない (本州産は徐々に隆起するが、頂部ではやや圧せられ、中央縦溝が存在する)。前胸背板は両側に向かって急傾斜し、外縁部は板状に圧せられない (本州産は中央基部がなだらかに傾斜し、両側部はなだらかで、外縁部は明らかに圧せられ板状となる)。毛は黄色と黒色の二色からなる (本州産の毛は黄色一色のみ) など、大きな違いが認められた。久米島産の個体を見る限りでは別種とした方がよいと考えられるが、分類学上の処理は、雄を確認した上で判断したい。

本種の生態については不明な点が多く、立ち枯れの空洞内から 1 個体の雄が採集された例や林内の 2 m ほどの高さに設置したブラックライトに飛来した 3 雄 3 雌の採集例が報告されている (吉田・黒田, 2001; 大平, 2004)。久米島産の個体もライトに飛来したものであるため、基亜種同様に走光性があるものと思われる。

#### 4. オキナワオオハナコメツキ *Platynychus lochooensis* (Kishii, 1979) (Fig. 6)

1 ex. (死骸)、沖縄県島尻郡久米島町シンリ浜 (5 m)、21. V. 2018、鈴木互観察・採集。

この個体は、芝生の上に設置された粘着トラップの下に死骸となって落ちていたものである。体中が粘着物質と砂が付着していた上に、強い日差しにさらされていたため、標本の状態は良くなかった。

このコメツキムシは、Kishii (1979) により当初はオオハナコメツキの沖縄亜種 *Dicronychus (Platynychus) nothus lochooensis* Kishii, 1979 として記載されたが、のちに大平 (1987) により種に昇格され、学名は現在では上記のようになっている。Kishii (1979) は、このコメツキムシを記載した際、奄美大島のものもオオハナコメツキの別亜種 *Dicronychus (Platynychus) amamianus* Kishii, 1979 として記載したが、大平 (1987) は、奄美大島産のものは、沖縄のものとは大差がないため、亜種として区別する必要がないとしている。本種はこれまでに沖永良部島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖縄島、渡名喜島、石垣島そして西表島と広い範囲に分布

することが知られている (内藤・有本, 2018)。

#### 5. アマミクリイロクシコメツキ *Melanotus nodai* Arimoto, 2011 (Fig. 5)

多数、アーラ岳, 28. III. –4. IV. 2012、地面設置式と枝吊り下げ式のブラックライト付き FIT、鈴木互採集; 多数、アーラ岳, 19–23. V. 2018、鈴木互採集; 多数、だるま山, 20–23. V. 2018、鈴木互採集。

本種は、奄美大島と徳之島の個体に基づいて命名記載されたコメツキムシであるが、その後の記録はなく、久米島からの記録はこれまでなかった。

久米島では、クメクシコメツキ *Melanotus masamichii* Kishii, 2004 と並んで個体数が多い種である。筆者は当初、新種のクシコメツキではないかと考え、先の久米島の報告には盛り込まなかったが (鈴木・乙部, 2013)、有本久之氏から、本種の奄美大島産の♂パラタイプ標本をお送りいただき、久米島産の個体と比較した結果、久米島産の個体は本種と確認することができた。

3 月～5 月上旬にかけて出現するようで、ライトには雄ばかり誘引され、雌がライトに誘引されることは少ないようである。今回の記録で、本種は、奄美大島、徳之島、そして少し離れて久米島に生息することが明らかになったが、徳之島と久米島の間に挟まれる与論島や沖縄島の標本は、手元の資料を調べてみたが見いだすことができなかった。沖縄島を飛び越えて久米島に生息するとは考えにくいことから、沖縄島には少なくとも生息している可能性は高いと考える。今後の調査が期待される。

今回の報告により、久米島生息するコメツキムシの種数は合計で 33 種となった。同規模面積の伊江島に比べると確認されている種数は多いが、琉球列島に広く分布するコメツキムシでも確認されていない種も多く、調査は十分とはいえない。また、分類学的に解決されていないコメツキムシも存在し、今後の調査に期待したい。

#### 引用文献

- Arimoto, H., 2011. Notes on elaterid beetles (Coleoptera, Elateridae) from East Asia (III) : A new species of the genus *Melanotus* from the Ryukyu Islands, Southwest Japan. *Elytra*. New series 1: 81–84.
- 平松広吉, 1975. 石垣島でのトラップ採集で得られたコメツキムシ. 甲虫ニュース, (25/26) : 11.
- Hayek, C. M. F. von, 1973. A reclassification of the subfamily Agrypninae (Coleoptera: Elateridae). *Bulletin of the British Museum (Natural History) Entomology Supplement*, 20: 1–309.
- 今坂正一, 2017. 島原半島産甲虫覚え書き 4. 一主として FIT による 2013 年～2015 年の成果— こがねむし, (82) :

- 1-28.
- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (42): 1-144.
- Lewis, G., 1894. On the Elateridae of Japan. Annals and Magazine of Natural History, (6) 13: 26-48.
- 水野弘造・岸井 尚, 2014. コメツキムシ科 (1). 大阪市立自然史博物館所蔵コウチュウ目録 (3). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, 46: 113-198.
- 内藤準哉・有本久之, 2018. 沖永良部島におけるコメツキムシ科甲虫2種の記録. さやばねニューシリーズ, (31): 30-31.
- Ôhira, H., 1967. The Elateridae of the Ryukyu archipelago, I (Coleoptera). Transactions of the Shikoku Entomological Society, 9: 95-106.
- 大平仁夫, 1975. 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (14). 北九州の昆蟲, 21: 71-73.
- 大平仁夫, 1986. 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (22). 北九州の昆蟲, 33: 1-2, 1 pl.
- 大平仁夫, 1987. オオハナコメツキについて. 昆虫学評論, 52: 73-76, pls. 1-2.
- 大平仁夫, 1995. 日本産ケシツブサビキコリについて. Elytra, Tokyo, 23: 193-194.
- Ôhira, H., 1999. New or little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan. Elytra, Tokyo, 27: 409-416.
- 大平仁夫, 1999. 日本産オオハナコメツキ属の種について. 比和科学博物館研究報告, (38): 349-355, pls. I-III.
- 大平仁夫, 2000. 栗原隆氏採集の3月の石垣島のコメツキムシ. 北九州の昆蟲, 47: 104.
- 大平仁夫, 2001. ケシツブスナサビキコリ熊本県で採集. 甲虫ニュース, (135): 10-11.
- 大平仁夫, 2004. 沖縄本島産アマミコガタノサビコメツキ雌の形態. 甲虫ニュース, (148): 7-8.
- 大平仁夫, 2009. 徳之島のコメツキムシ若干種の記録. 甲虫ニュース, (167): 5-6.
- 大平仁夫・黒田裕次, 2002. 沖縄本島産アマミコガタノサビコメツキ. 甲虫ニュース, (139): 18.
- 大平仁夫・鈴木 互, 1985. コメツキムシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 52-92, 97 (pls. 10-15). 保育社, 大阪.
- Suzuki, W., 2001. New record of *Rismethus ryukuensis* (Coleoptera, Elateridae) from the island of Ltao, Taiwan. Elytra, Tokyo, 29: 464.
- 鈴木 互, 2003. 沖縄県伊是名島で採集されたケシツブスナサビキコリの記録. 月刊むし, (394): 30.
- 鈴木 互, 2014. 久米島未記録のコメツキムシ2種. さやばねニューシリーズ, (14): 7.
- 鈴木 互・乙部 宏, 2013. 久米島から採集された興味あるコメツキムシについて. さやばねニューシリーズ, (10): 5-12.
- 吉田正隆・黒田裕次, 2001. 2000年沖縄本島北部調査記. 徳島昆虫, (12): 25-30.

(2019年9月24日受領, 2019年11月15日受理)

## 【短報】キイロモモフトカッコウムシの四国における初記録

キイロモモフトカッコウムシ *Iwawakia femorata* Miyatake, 1985 は, 名前の通り, 太い後脚腿節するモモフトカッコウムシ属の一種である. 本種は「原色日本甲虫図鑑 (III)」で図示され (宮武, 1985), Sato (2002) により近畿地方 (大阪府, 京都府, 奈良県, 和歌山県) の標本に基づき再記載されたが, 以降追加記録がなかった. 徳島県大滝山にて本種を複数個体採集したので, 本報告にて四国より初めて

記録する.

2♂2♀, 徳島県美馬市脇町大滝山西照神社境内 (標高930m), 14.VII.2019 (図1, 2), 脇採集 (ライトトラップ)・愛媛大学博物館保管.

採集日は瀬戸内むしの会の夜間採集会が行われており, 採集個体は全て, 小雨が降る中, 深夜0時から2時にかけてライトトラップに飛来した.

末筆ながら, ライトトラップを設置していただいた瀬戸内のむしの会の皆様, 本報告にあたり諸々ご助言いただいた宇都宮靖博, 藤本博文, 酒井香, 吉富博之の諸氏に厚く御礼申し上げる.

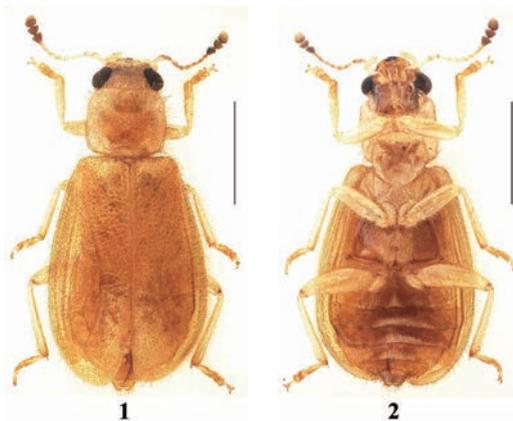


図1. キイロモモフトカッコウムシ♂, 背面 (スケール2mm). 図2. 同, 腹面 (スケール2mm).

## 引用文献

- 宮武睦夫, 1985. カッコウムシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (III): 151-160 (incl. pls. 24, 25). 保育社, 大阪.
- Sato, S., 2002. Notes on the genus *Iwawakia*, with description of a new species from central Japan (Coleoptera, Cleridae). Japanese Journal of systematic Entomology, 8 (1): 109-114.

(脇 悠太 761-0701 三木町大字池戸 2393  
香川大学農学部応用生物科学科)  
(村上広将 790-8566 松山市樽味 3-5-7  
愛媛大学農学部環境昆虫学研究室)